

旬の産直大百科



JA直売所キャラバン

農林中央金庫と(株)NHKプロモーションは、JA直売所のPRを通じて国産農畜産物の消費拡大を促すために連携し、全国47都道府県のJA直売所を訪問してクッキングステージなどを披露する「JAバンク×みんなのきょうの料理健康キッチン～JA直売所キャラバン～」を平成28年8月より開催しています。

このイベントのキャラバンカーが7月27日、農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」を訪れ、34回目のクッキングステージを開きました。料理研究家の脇雅世さんが旬のピーマンを使い、「ピーマンの香味煮」と「花巻黒ぶどう牛のうまみトマトソース」を調理し、来場者に「ピーマンの香味煮」を振る舞いました。

■スペシャルトークステージ



料理研究家の脇雅世さんとミニトマト生産者の菅野勉さんによるスペシャルトークステージが行われました。菅野さんは「消費者が手にとって喜んでくれる顔を見せるとうれしくなり、また頑張ろうと気合が入る」と話し、脇さんは「鮮度の良いものを生産者自らが直接運び、名前なども書いているため安心できる」と笑顔で話しました。

JAバンクからは、金融部金融推進課の島山聡子職員が「よりぞう」とともにJAカードについて説明しました。



がんばる青年部

地域貢献と地域交流を 盟友が一致団結して廃プラ回収

青年部は、地域貢献と環境を守る活動の一環として、使用済みの農業用プラスチックやビニールの回収に毎年取り組んでいます。

今年度は6月29日と7月6日に北上地域で、7月13日と20日に花巻地域で行いました。そのうち、中央カントリーエレベーター(花巻市鍋倉)には花巻や湯口、太田、笹間の各支部から約30人の盟友が集結。地域の組合員や生産者など約120人から持ち込まれた育苗箱や肥料袋、農薬容器、マルチシートなどを



持ち込まれた育苗箱を協力して降ろす盟友たち

種類に応じて業者指定の回収袋に手際よく詰め込みました。一時は

荷降ろしを待つ車両がずらりと中央カントリーエレベーターの周囲に並びましたが、気温30度に迫る暑い中、盟友たちが協力して作業を行い、スムーズに回収が進みました。



約11tの廃プラを回収

花巻地域青年部笹間支部の高橋清孝支部長は「廃プラ回収は、青年部の柱とも言える活動。作業をしながら他支部の盟友と交流を図れるほか、地域の生産者の顔を知りコミュニケーションをとることもできる」と活動の意義を話しました。

ぼらーの広場

ぼらーの広場は、読者の皆様との交流の場です。皆様からテーマにちなんだお便りを募集し、紹介しています。

今月のテーマ 子どもの頃の夏の思い出

投稿を頂いた方の中から抽選で、今月は「西和賀りんどう」をプレゼント!

初めてのデートは高校生の夏。暑さと緊張で手汗が気になり、手を繋ぎたいけれど繋げない甘酸っぱい青春の思い出です。(北上市・ゆりゆりママ)

家の中には誰もいないのに、台所から寢床の方に白い着物を着た人が通りすぎたことを思い出します。(北上市・ニャンコもち)

父が蚊帳を吊るす際にうれしくてまわりつき叱られたものです。蚊帳の上にホテルを放ちその光を見て眠りました。(北上市・ドリップコーヒー)

小学校の夏休み中、校庭にテントを張り、全校児童でキャンプをしたこと。みんなで作ったカレーは絶品でした。(遠野市・るんるん)

豊沢川で泳いだことです。大きな石から飛び降りたり、浮き輪に座り流れたり。平和な時代でした。(花巻市・マロンの母)

お昼頃、チリンチリンと鈴を鳴らしてアイスキャンディー屋さんが来るのが楽しみでした。60年も前の夏の思い出です。(遠野市・おかめんこ)

来月のテーマ(10月号掲載)「忘れられない出会い」応募締切/9月10日(火)消印有効

テーマにちなんだエピソードを募集します。これまでの人生で忘れられない出会いとそれに関するエピソードを教えてください。

応募方法: ①テーマにちなんだお話②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③ペンネーム④JAや広報誌に関するご意見・ご感想を記入の上、はがきまたはメールにてご応募ください。右記のQRコードからのご応募もできます。

※投稿頂いた中から内容を誌面に掲載させていただきます。ペンネームが無い場合はイニシャルでの掲載になります。

●はがき: 〒025-8504 花巻市野田 316-1 JAいわて花巻組織広報課「ぼらーの広場」宛

●メール: polano@jahanamaki.or.jp ●当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

5名様にプレゼント!
二子さといも

JAいわて花巻 応募フォーム
https://www.jahanamaki.or.jp/entry/index.php

変わるJA 広がる地域のきずな

監修=広島大学 助教 小林元

Q、JAは地域にとってどんな存在なの?

A、地域の食やインフラ機能を支え、地域を元気にします。

協同組合は組合員自らが、くらしや生業(なりわい)の願いやニーズを共有して、事業を運営しています。JAは、営農・経済事業(生産資材の共同購入や生産物の共同販売)を通じて、組合員である農業者の所得の向上や農業生産の拡大を進めています。また、くらしの願いやニーズに対応した信用、共済、生活購買、厚生(医療)、旅行、介護などさまざまな事業を行っています。

そして「JA健康寿命100歳プロジェクト」などを通じて高齢者福祉活動を展開、食農教育や組合員・地域住民の交流活動、直売所の運営などにも取り組んでいます。これらの取り組みは、組合員の願いやニーズを叶えると共に、食と農を通じて地域を豊かに、そして元気にする取り組みです。

JAは、地域に根ざした協同組合として、組合員だけでなく地域住民が必要とするくらしに関わる事業を総合的に提供しています。JAは、地域になくはならない協同組合として、地域を支えるインフラ機能を発揮しているのです。

